



南十字星創刊60周年記念企画 座談会 「シンガポールと私」

南十字星創刊60周年記念に、日本人学校で
勤務経験のある3名で座談会を開催しました。

(実施日:2024年12月18日)

こまつばら えり
小松原英莉 日本人学校中学部国語科教諭
こばやし ざとし
小林 智 絵画教室Studio Miu Art講師
おおはし まゆこ
大橋真由子 日本人学校小学部クレメンティ校教諭

小松原 じゃあ、まずは自己紹介から！2020年にシンガポールに来て、チャンギ校で3年間働きました。今、中学部に来て2年目です。チャンギ校では、特別支援を2年間と音楽専科を1年間担当しました。中学部では、国語の教員をしています。よろしくお願いします。



大橋 大橋真由子です。2021年にクレメンティ校に赴任しました。音楽主任で、メインは高学年の音楽を教えています。今は2年生の図工と2・3年生の書写も担当しています。お願いします。

小林 小林智です。2014年にシンガポールに来て、中学部で美術を5年間教えました。その後、2019年にチャンギ校に異動して、図工専科を5年間やりました。2024年の3月に退職して、今は絵画教室で教えています。あと、幼稚園でも事務やアートの手伝いをやっています。

小松原 **早速ですが、シンガポールに来た理由について聞きたいです。**小林さんは長いですね。

小林 あ、でもそんなに面白くないですね(笑)。日本で仕事を探していて、偶然シンガポール日本人学校を見つけて応募したら通って、仕事を全部辞めてこっちに来たって感じです。

小松原 大橋先生は？

大橋 私はもともと東京の小学校に勤めていて、海外の日本人学校に興味があつて…シンガポールというのは本当にたまたまだったんですけど。音楽専科で探していて、メキシコと中国とシンガポールがその年の募集にあつて、一番シンガポールに魅力を感じていたのので受けてみました。私は異国の地で、全く日本と違う環境で暮らしている日本人が、どんな風に周りの人



(左から)大橋真由子さん、小林智さん、小松原英莉さん

と共存しているんだろうというのがすごく気になって…日本の子どもだったらどんな風に生活しているんだろうと思って。

小松原 シンガポールは多民族ですしね。私は、大学を卒業してすぐこっちに来ました。先輩で日本人学校に就職する人が多かったのと、日本で一度勤務したらなかなか国外に出られないかなと思って…。

大橋 シンガポールはたまたまですか？

小松原 募集校一覧が出た時にシンガポールに行きたいと思って、その日に事務局に問い合わせました。「新卒で働きたいんですけど、学生でも応募できますか？」って(笑)。



教員1年目の小松原教諭

大橋 シンガポールに魅力を感じたんですね。

小林 記事になったら、自分の答えだけあまりに…って感じですね(笑)。

小松原 **シンガポールに来てみて、最初に感じた印象は？**

大橋 私と小松原先生は、思いっきり新型コロナウイルス(COVID-19)感染拡大の真っ只中の時に来たので、本当に嚴重に制度が整っているなって…日本よりも明らかにギチギチに色々なことが管理されていましたよね。SafeEntry・TraceTogetherとか日本では考えられなくて、でもそれをきちんとみんな守っているのがすごいなと思って…。

小松原 新型コロナウイルスは大きかったですよね。その時、Safe-distancing ambassadorsとかも歩いていて…マーライオンパークとか誰もいなかったし、どこもすごく空いていました。小林さんが来た10年前の印象は？

小林 どうだったんだろう…お店の人の対応がラフなのが良いなと思った印象があります。人々が服装とかお化粧とかも含めて、日本に比べてすごくナチュラルだなと思った記憶があります。女性ってそういうこと感じませんか？

小松原 段々どんどん適当になっていきます(笑)。あとは、フレンドリーなのも良いなと思います。店員さんとかタクシーの

ドライバーさんとか、人が明るくてエネルギーがあるとも思います。**日本人学校で働いてみての感想はいかがでしたか？**小林さんも2校で働いていますよね。

小林 自分はフルタイムで働くのはシンガポールが初めてだったので、それにまず衝撃を受けました。中学部では、進路業務も担当していたので色々と学んで、それはその後も活きていますね。

小松原 大橋先生は？

大橋 私は、子どもの感じが違うなと思いました。もともと東京で働いていた時も天真爛漫な子が多かったんですけど、よりオープンな子が多いなと感じました。日本の子どもって結構シャイな子も多いじゃないですか。間違いなく、日本人学校の子の方がオープンです。私は音楽を担当している中で、「音楽に関わるのなら何でも良いよ」と言って学期に一回最後の授業で発表する時間を設けています。クラス全員がじっと見ているなかで、カラオケ・ダンス・バレエ・チア・ピアノとか…そういうことをちょっと恥ずかしがったり、躊躇したりしちゃうかなと思うんですけど、クレ校の子は海外で暮らしているからなのかオープンで、表現する心がすごいなと。それが一番好きなのところでもあります。



ピアノを演奏される大橋教諭

小松原 美術のなかにもそういうことはありますか？

小林 自由参加のコンテストに積極的に参加してくれるとか、確かにそういう印象はあります。

小松原 あと、子ども同士や先生たちの出入りが多いのも良いですね。子どもたちもすごく慣れていて、寛容だなと思います。

大橋 小学部と中学部でやってみてどうですか？

小松原 また違いますね。小学生は素直でかわいいとか、中学生は任せられる部分も増えて、頼りになるなとか。**日本人学校での印象深かった仕事ってありますか？**私はクレッ子コンサートにお邪魔して、大橋先生の合奏指導がすごいなと思いました。

大橋 ここで一番印象に残っているのは、来て1年目のコンサートですね。呼吸を使う楽器が何もできなかったのも、その中で距離を気にしながら録音して編集して…それが日本ではなかった経験でした。メトロノームを聞きながら指揮を振って…今となっては良い経験ですけど、当時は大変でしたね。

小松原 小林さんは何かありますか？

小林 中学部は美術・音楽・家庭科・体育がイマージョン授業なので、オーストラリア人の先生と一緒に授業をするのが楽しかったです。オーストラリア人の先生と日本の美術を教えるという経験は面白かったですね。



会話がはずむ座談会の様子

小松原 スケッチ大会もありますよね。

小林 スケッチ大会は、観光地に行って子どもがそこで絵を描きます。すごいことですよ。

小松原 私にとっては、1年目に受け持った特別支援学級での毎日は印象深かったと思います。大学生から教師になって、初めて担任した子どもたちだったので…すごく楽しかったです。

小林 中学部に異動してガラッと変わるじゃないですか。その時はどうでしたか？

小松原 仕事の中身ではないですが…チャンギの3年間は最年少で、たくさんの先生方にお世話になりました。中学部に行ってから後は輩ができたのも大きくて、仲の良い先生がすごく増えました。

小林 至らず、すみません。(筆者と小林先生はチャンギ校で3年間一緒に働いていました！)

小松原 あ、そういう意味じゃなくて…本当に違います。次、行きますね(笑)。**シンガポールに住んで、自分の変わったところはありますか？**私は、タフになったなと感じます。新型コロナウイルスの時は突然オンライン授業になることもあって…もともと前向きな性格ですけど、何事もどっしり構えられるようになったというかあまり動じなくなりました(笑)。

大橋 私も同じような感じです。良い意味で図々しく、図太くなりました。前から楽観的な性格ですけど、本当に色々な民族がいて、主張するときは主張しないと生きていけないと思って…些細なことですけど、お店で中国語でまくしたてられても、しっかり主張できるようになりました。民族や文化を知ることができました。

小松原 買い物一つとっても、そうですね。小林さんは、変わっていないさそうですね？

小林 もう、昔の自分を忘れてしていますね。年齢を10歳重ねましたね(笑)。

小松原 **住んでいるなかで日本人学校の変化は感じましたか？**

大橋 個人情報やプライバシー保護が、年々厳しくなっていると感じます。

小松原 私は、ICT活用ですね。小学校からの積み重ねで子どもたちが本当に慣れていて、授業の中でもプレゼンテーションやスライド作成をする場面が多いですね。

大橋 確かに今のクレメンティの子、すごく使いこなしています。

小松原 **南十字星との関わりですが、小林さんはどうして編集委員になったんですか？**

小林 先輩に勧められて1年目から10年間やりました。取材として、色々なコミュニティや人と知り合えるのが楽しかったですね。

小松原 私もそんな感じです。3年目になる時にお世話になった先生が離任されて、「南十字星面白いからやってみなよ」と言われたことがきっかけです。編集委員は3年目ですね。大橋先生は、南十字星との関わりはありますか？



みきゃんのインタビューをされた
小松原教諭

大橋 どんぐりのメニューを読んで旬の食べ物を見たり、学校行事の報告記事を読んだり…日本人会で行われる四季に沿ったイベント記事を読むと、いいと思います。

小松原 小林先生は、南十字星60周年記念ロゴも作っていますよね。

小林 南十字星のロゴは結構作ってきました。記事のタイトルとかデザインとか…。

小松原 日本人学校のグッズや教員シャツも作っていますよね。

小松原 ここからはプライベートな話で、シンガポールでチャレンジしたことはありますか？私は新型コロナウイルス感染拡大期間中は暇すぎて、プラナカンビーズでサンダルを作りました。



小林 完成したんですか？

小松原 マレーシアにお仕立てに出して、完成しました。

小林 自分は、来た時に絵のコンテストを調べたんです。UOBのコンテストが一番大きいとオーストラリア人の先生に言われて、1年目から毎年出して、3年目でやっと賞がもらえました。

一同 すごい！

小松原 お二人のシンガポールおすすめグルメはありますか？私は、ホーカー大好きです。中学部のすぐ近くにアヤラジャという美味しいホーカーがあって、異動してすごく良かったです(笑)。皆さん、ローカルグルメは何が好きですか？

小林 ホッケンミーです。

小松原 私は、プラウンヌードルが好きです。

大橋 チキンライスです。

小松原 分かれましたね。どれも美味しいですよ！シンガポール生活一番の思い出はありますか？

大橋 私は、とにかく引っ越しをしているんです。4年間で、5軒住みました。シンガポールの変化と言えば、家賃の上昇ですね。

小松原 確かに…思い返せば、円安もですね。来た時は1ドル80円でした。最後の質問いいですか？**読者の方へのメッセージをお願いします。**

小林 僕らって、何か言える程のそんなに偉い人じゃないですよ。

一同 笑

小松原 私は、AI時代だからこそ人間的な魅力のある人に育って欲しいなとすごく感じますね…人を大事にできる人に。

大橋 私は、子どもたちに「自由に発想できる人」になって欲しいなと思っています。どんな形であれ自分を表現できる人…それがここの学校に通っている子たちのオープンな心の良さだなと感じてきたことなので、どんどん自分を表現して欲しいなと思います。

小松原 先生、それすごく良いですね。大橋先生からたくさん名言が！

小林 どんどん締めていただいて(笑)。

小松原 これで、記事書けますかね？

大橋 多分…？音楽も美術も世の中的にはイレギュラーですよ。それでも、ちゃんと生きてるぞっていう(笑)。

小林 最後、そうしましょう。ちゃんと生きてるぞ僕たちは！

小松原 でも総じて楽しく働いているから、私たちここまで長くいた訳ですよ。

大橋 そうですね。自分の得意分野を伸ばして…きつと続けていれば何か自分に役立つから。

小松原 私たちもそれぞれ経緯は違うけど、「好き」を見つけて、やりたいことを追求してこっちに來た訳ですよ。子どもたちにも、常に自分のやりたいことを追って行動して欲しいですね！

<番外編>

小松原 大橋先生は学生時代、作曲が専門だったんですよ。どんな風に曲を作るんですか？

大橋 色々なタイプがありましたけど、例えば谷崎潤一郎の小説『刺青』を読んでそれをもとに曲を作るとか…。

小松原 すごすぎますね。いいな…面白い！

大橋 その雰囲気合うようにして…それは、自分でやっていて面白かったです。

小松原 美術はどうですか？作品って、何が基になっているんですか？

小林 作曲は、メロディと感情のどっちが先か？ってさっき気になったんですけど…自分も結構大事で、感情寄りなんです



受賞式にて小林さん 第35回UOB絵画賞展で銅賞受賞



作品名「The producer」

United Overseas Bank, Singapore / UOB

よね。絵を見た時にこういう感覚になりたいっていう感情が先になって、「そういう感情になる絵はどんな絵だろう」って描きながら考える感じです。抽象的ですけど、何の絵でもそうです。猫の顔でも、雰囲気为先ですね。

小松原 私はシンガポール生活が終わったら、振り返ってエッセイにしたいと思っています。第7章まで章立てしていま

す(笑)。先生とコラボしたいです!大橋先生に曲を付けてもらって、小林先生に表紙を描いてもらって…みたいな(笑)。

大橋 面白い!ぜひぜひ。

小松原 これから挑戦したいことです。完成したら、ぜひお願いします!じゃあ各々ががんばりましょう!

編集後談

創刊60周年という節目に教員座談会を設けてくださり、ありがとうございました!私自身にとっても、これまでのシンガポールでの生活を振り返る貴重な機会となりました。

日本人学校に通う児童生徒は素直な子が多く、働く教員も個性溢れる素敵な先生方ばかりだと思います。改めて、子ども・同僚・保護者の皆様に恵まれ、育てていただいた5年間だったと実感しました。

子どもたちには、転出後や卒業後もシンガポール日本人学校を「学びのふるさと」として思い返してもらえたら嬉しいです。小林先生・大橋先生、貴重なお時間をいただき、ご協力くださり本当にありがとうございました!

小松原英莉